

# コンテンツ産業振興事業に関わる調査分析等委託 報告書概要版

## 1. 調査の目的

わが国でコンテンツ産業（ここでは、映画、アニメ、ゲーム、書籍、音楽等の制作・流通を担う産業の総称とする）は12兆円規模にも達しており、他の産業とのコラボレーションのしやすさ、生産性・利益率の高さ、海外での需要等で今後の成長がさらに期待されている。

本市は、特徴的といえる産業が弱く、住宅都市としての性格が強いため、行政運営として個人市民税に依存している傾向にある。一方で、かつてはフィギュア大手メーカーや上場を果たしたゲーム制作会社が存在しており、現在もコンテンツ制作会社が立地することから、実態として都市近郊でありながら生活コストが安いといった理由によりコンテンツ産業が立地する上でのポテンシャルが高い街であると推測できる。

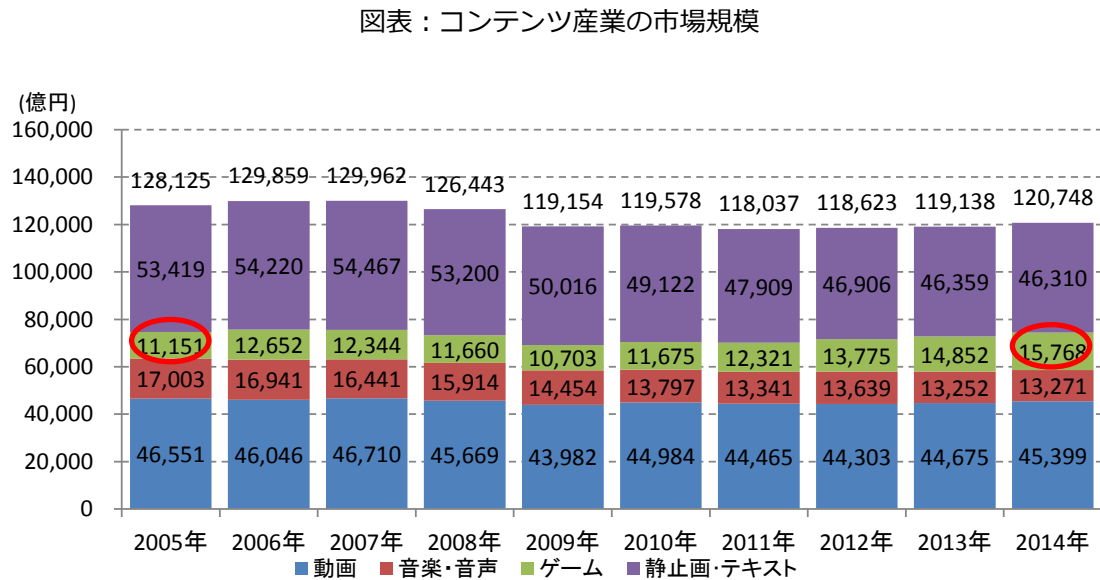
また、若手クリエイターを誘致する不動産会社が、ここ数年で約200人の誘致に成功し、アートプロジェクト等の市の文化政策とも連携を図っている。更に、本市を舞台とするコンテンツを創りたいという想いをを持ったクリエイターから様々な提案を受けている。

このような背景や課題、気運を活かす為には、まず本市のコンテンツ産業を定量的に把握することが不可欠だと考える。現状を統計やインターネットアンケート調査、ヒアリング調査等で調査分析し、コンテンツ産業の課題やニーズを抽出することで、コンテンツ産業を活性化させる制度や仕組みを創出し、質の高い雇用を確保することを目的とする。

## 2. 統計調査

### ①コンテンツ業界はゲームのみが成長傾向

コンテンツ産業別にみた市場規模をみると、総額約12兆円前後で推移しており、2008～2009年頃に一時落ち込んだが、その後徐々に回復傾向にある。内訳をみると、「静止画・テキスト」が4.6兆円、次いで「動画」(4.5兆円)、「ゲーム」(1.6兆)、「音楽・音声」(1.3兆円)と続いている(右図)。



資料) デジタルコンテンツ協会(2015)「デジタルコンテンツ白書」より作成

2005年を100とした場合の業種別の市場規模の伸び率をみると、全分野が減少傾向にあるなかで、「ゲーム」が141.4と唯一

増加傾向となっている。この要因をみると、ゲーム業界全体が成長しているとは限らず、「パッケージソフト」(「任天堂DS」等のハードとともにプレイするタイプのゲーム)や「ゲームセンター」での売上げ等は全て減少傾向にあり、他方でソーシャルゲーム等を含む「オンラインゲーム 運営サービス売上」が増加傾向であり、ゲーム産業の市場規模を押し上げている。

### ②松戸市には約2,000名の映像・音声・文字情報制作業の従事者がいるが、松戸市内で働いているのは約200名

松戸市は平成22年の総務省「国勢調査」によるとには人口484,457名おり、15歳以上の就業者・通学者は249,729人であるが、そのうち松戸市内で従業・通学する人は85,756人(34.3%)である。これ以外が市外に通勤・通学するものとなるが、その内訳をみると特別区が89,758人(35.9%)と松戸市内常住・市内就業・通学者を上回る状況にある。

「映像・音声・文字情報制作業」に従事する松戸市民は2,140人いるが、同産業のうち松戸市で働く人は230人に留まる。逆にいうと、副業も含めてみると「伸びしろ」があるといえる。

## 3. インターネットアンケート調査

### ①実施方法

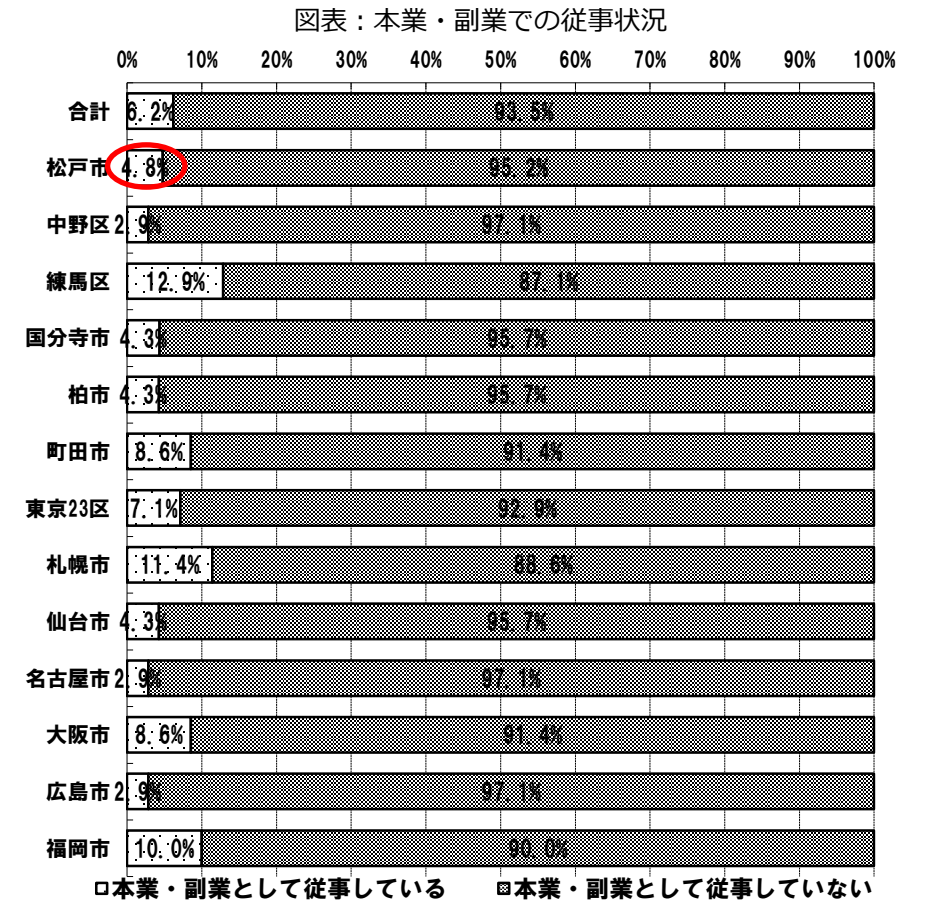
インターネットアンケート調査では、**松戸市民、都心部(23区)、郊外拠点都市(柏市、練馬区、中野区、国分寺市、町田市)、地方拠点都市(札幌市、仙台市、名古屋市、大阪市、広島市、福岡市)**在住の方々を対象に実施し、性別年齢別のバランスをみて1,131名抽出した。

### ②コンテンツ関連産業(アニメ、マンガ、ゲーム、同人等の創作・販売等)への本業・副業での従事者は4.8%

調査対象地域をみると、インターネットアンケート調査の回答者のうち6.2%程度がコンテンツ関連産業の従事者がおり、**松戸市は4.8%**と他都市と比べて中位となっている。(右図)

### ③松戸市外からの松戸の認知度は約7割

松戸市外から松戸の認知をみると、**全体で70.5%**は松戸を知っており、近郊拠点都市では概ね8～9割前後となっている。他方、**西日本などの遠方の都市になるほど認知度が下がり、仙台を除くと半数前後**となっている。また、**年齢階層別**にみると、「16-29歳」における認知度が**64.6%**とやや低い。



### ④コンテンツ産業従事者は働きたい街を選ぶ際に、アートやコンテンツが充実している街に関するニーズが高い

「本業・副業としてコンテンツ産業に従事している」人は「アートやコンテンツが充実している街」などのニーズが高い。「本業・副業としてコンテンツ産業に従事している」人から松戸の評価は比較的高いが、イメージを発信する必要がある。(下図)

